

2015年5月21日

国立大学法人北海道大学北極域研究センター

齊藤 誠一センター長殿

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所国際北極環境研究センター

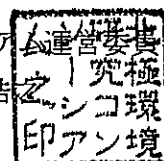
榎本 浩之センター長殿

国立研究開発法人海洋研究開発機構北極環境変動総合研究センター

河野 健センター長殿

北極環境研究コンソーシアム運営委員会

委員長 榎本 浩之



「連携ネットワーク型共同利用・共同研究拠点」を目指す3機関への支援

北極環境研究コンソーシアム（JCRC）は、我が国の北極環境研究を総合的・計画的に推進するため、北極環境研究に携わる国内研究者を結集し、自主的活動を通じて、北極環境研究の発展に寄与することを目的として2011年5月に発足し、長期研究計画・体制の検討、研究交流、人材育成、広報・普及などの活動を行っています。JCRCには北海道大学、国立極地研究所及び海洋研究開発機構の北極研究者のほとんどが参加し、その活動の中心的な役割を担っています。

北海道大学、国立極地研究所及び海洋研究開発機構は古くから北極やその周辺域の学術研究を行っており、特に2011年より国立極地研究所を代表機関として開始されたGRENE事業北極課題においては、それまでばらばらに行ってきた北極域を研究する研究者が相互に連携して研究を行っています。一研究者が行うには限界のある研究目標に対してより多くの研究者が結集して取り組むことでより効率的総合的に研究を遂行する体制を構築することはJCRCの目的に合致するところです。

北海道大学、国立極地研究所及び海洋研究開発機構の三者が、連携ネットワーク型共同利用・共同研究拠点「北極域研究共同推進拠点（仮称）」を設置し、北極環境研究の共同利用・共同研究拠点として、自然科学による北極域の科学的解明ならびに自然科学と人文社会科学および農工等実学の連携による課題解決を促し、関係諸国の様々なステークホルダーとの協働により解決策を模索し、北極域に関する総合的な課題解決型の研究を推進することを目的とされることは、我々の目的と合致するものであり、この拠点が研究者コミュニティに対して、観測・研究拠点や船舶等の研究インフラの共同利用の機会や海外連携機関との交流の機会および若手人材育成支援などのサービスを提供されることを歓迎します。実際の拠点の運営に当たりましては、常にその情報を北極研究者コミュニティに開示し、広く公平に日本の北極環境研究が推進されることを望みます。

北極環境研究コンソーシアムは、3機関が目指す連携ネットワーク型の「共同利用・共同研究拠点」として申請されることについて、積極的に支援・支持致します。

以上。